第 4章

代表的な環境ごとの動植物

4.1 陸 域

4.1.1 低地の河川敷

(1)植物

三島市内の低地は狩野川をはじめ、大場川、御殿川、源兵衛川などが流れています。これらの河川敷や水辺周辺では、72 科 281 種の植物が確認されました。狩野川などの大きな河川の中下流部は比較的穏やかな流れとなり、このような河川敷にはオギやヨシ、ヤナギ類、メダケなどが生育しています。また、タデ類、セリ、カワジシャなど水辺を好む植物の他、ギシギシ類、オオブタクサ、オオアレチノギク、セイタカアワダチソウなど荒れ地の植物もよくみかけます。堤防沿いは、メリケンカルカヤ、セイバンモロコシ、ネズミムギなど外来のイネ科植物が目立ちます。御殿川、大場川などの堤防内の草地には、イタドリ、カナムグラ、ヨモギ、ススキ、オニウシノケグサなど様々な草本植物(14)が見られます。

春　2002/4/3

夏　2002/7/9

秋　2002/10/10

冬　2003/1/9

(狩野川)

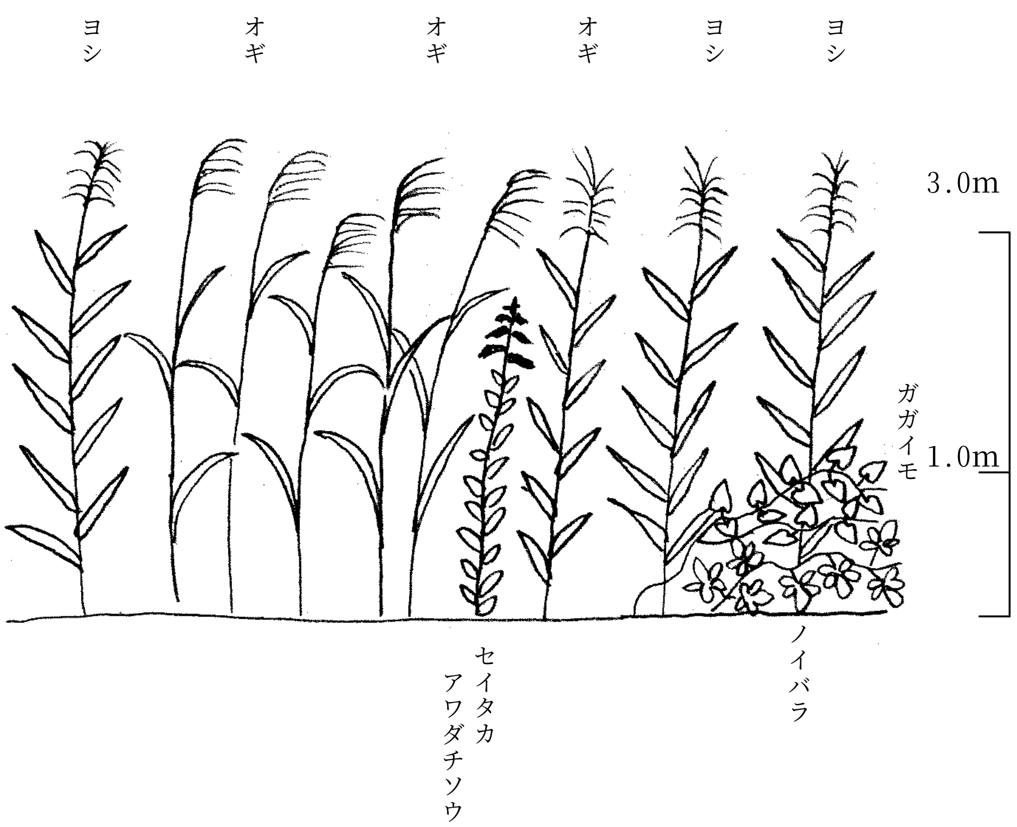

図 4-1-1　オギ群落(狩野川)の模式断面図

オギ(イネ科)

高さが 1～2.5m程になり、河川の中流部の湿った砂質地に生育する草本(そうほん)です。冠水に耐え、大きな群落になります。9～10 月、ススキによく似た穂を出しますが、ススキより穂が長く、銀白色です。ススキと同様に、茎と葉を屋根葺き材として使うことがあるそうです。市内では、狩野川の河川敷などで見ることができます。

【撮影：2002/10/10 狩野川】

ヨシ(イネ科)

高さが 1～3m 程になり、湖沼や河川、湿地などに群生する大形の草本(そうほん)です。生育の幅が広く、各地の水湿地で見ることができます。8～10 月に 15～40cm の大型で淡紫色を帯びた穂を出します。根を乾燥させたものは「蘆根(ろこん)」と呼ばれ、利尿や解毒の効果があるといわれています。市内では、低地の河川や湿った空き地などで見ることができます。

【撮影：2002/9/19 梅名】

ボントクタデ(タデ科)

水辺や湿地に生育する高さ 0.7～1m 程の一年草(16)です。長さ 5～10cm の葉の中央部には、黒い斑紋が見られます。花序(33)は、長さ 5～10cm で、先は垂れ、9～10 月には、淡紅色の花をまばらにつけます。市内では、狩野川など河川周辺の湿った草地で見ることができます。

【撮影：2002/10/10 狩野川】

ミゾソバ(タデ科)

川辺、池のへりなどの養分のある水湿地に生育する高さ 30～100cm の一年草(16) です。和名は、溝に生えるソバに似た草ということからつけられました。7～10 月に、淡紅色から白色の小さい花を枝先に密につけます。葉の形が変わっていて、牛の顔を正面から見たようです。市内では、河川周辺や池の周辺で見ることができます。

【撮影：2002/10/22 松毛川】

アキノエノコログサ(イネ科)

畑地、路傍、荒れ地などに生育する高さ 30～100cm の一年草です。8～10 月に、太くて丸い穂を出します。この穂が子犬(エノコ)のしっぽに似ていることから、和名がつきました。また、猫が穂にじゃれるので、ネコジャラシともいいます。市内では、河川敷や街の中の空き地で見ることができます。

【撮影：2002/7/11 松毛川】

メリケンカルカヤ(イネ科)

高さが 80cm 程になり、日当たりがよくて乾燥し、やせた土地に群生する草本(そうほん)です。9～10 月になると、茎の上部に 2～4 個の花序(33)をつけ、晩秋から初冬にかけては、全体が赤く色づきます。戦後、都市部を中心に広がり、現在では、造成地や高速道路の周辺などで多く見られます。

【撮影：2002/10/10 狩野川】

(2)動物

低地の河川敷では、哺乳類 4 科 4 種、鳥類 28 科 56 種、は虫類 3 科 3 種、両生類 3 科 3 種、昆虫類 57 科 147 種が確認されました。

●哺乳類

モグラ属の種・アカネズミ・タヌキ・ハクビシンの 4 種が確認されました。アカネズミは狩野川河川敷に草が生い茂っている場所で捕獲されました。タヌキは松毛川沿いで撮影により確認され、ハクビシンは農家の方から聞き取り情報が得られました。河川敷の所々には直径 20cm 程度の巣穴らしき穴が見つかりましたが、ハクビシンやタヌキが昼間の潜み場所として使っているかもしれません。なお、松毛川では戦後間もない頃にヌートリアという大型のネズミの仲間が生息していたとの情報も得られています。

●鳥類

四季の調査では、いずれも 30 種前後の鳥類が見られましたが、河川敷を利用していた種類はこのうちの約半分でした。河川敷のグラウンドでは、市街地から飛来したハクセキレイ・スズメ・ムクドリ・カラス類・ドバトなどが一年中餌をとっている姿が見られました。夏鳥の種類は少なく、コチドリとツバメ類が見られただけでした。冬になると、冬鳥のツグミ・ホオジロ類などが渡来し、種類・数ともに夏より増加しました。水辺周辺に帯状に残された草地では、キジ・ヒバリ・セッカが繁殖していましたが、自然のヨシ原がほとんどないため、オオヨシキリの繁殖は見られませんでした。

●は虫類 両生類

は虫類はアカミミガメ・スッポン・ヒバカリの 3 種が確認されました。アカミミガメは松毛川で確認されました。普段は水の中にいますが、日光浴や産卵の時には川岸や河川敷も利用します。スッポンも松毛川で確認されたほか、大場川の岸辺で日光浴をしているところが確認されています。この大場川では、産卵したと思われる跡も見られました。ヒバカリは狩野川沿いで確認されました。水辺を好むかわいいヘビです。

両生類ではアマガエル・ウシガエルが確認されました。アマガエルは狩野川河川敷で確認されましたが、水田地帯の生息数に比べると大変少ないようです。ウシガエルは河川敷や狩野川の岸辺で鳴いているのが観察できます。また、低地ではありませんが、箱根西麓の大場川(佐野広畑付近)で少数のカジカガエルが確認されました。昔はもっと下流の低地の河川にも生息していたものと思われます。

●昆虫類

バッタ目・コウチュウ目・チョウ目を中心とした草地性の昆虫が多く見られました。

春には花に集まり花粉を食べるコウチュウ目のコアオハナムグリ、チョウ目のモンシロチョウ・ベニシジミ・ツバメシジミが確認されました。夏になると地表を徘徊する肉食のアオオサムシ・オオヒラタシデムシが採集され、河川敷周辺にはえているエノキにはゴマダラチョウ、クヌギの樹液にカナブン・シロテンハナムグリ・コクワガタが見られました。秋には土手の草地からバッタ目のショウリョウバッタ・トノサマバッタがよく見られ、キリギリス・ウスイロササキリ・スズムシ・マツムシといった鳴く虫たちの鳴き声も確認されました。また、ブタクサの葉を食べる移入種のブタクサハムシも確認されました。

ハクビシン

　やや大きなネコ程の大きさで、尾が長く、鼻筋に白い線があるのが特徴です。雑食性ですが特に果実類を好むので、ミカンなどの果樹に被害を与えてしまうことがあります。器用に木を登ることができます。

【撮影：2002/5/2 谷田】

チャバネセセリ

　はねを広げた時の幅が 3cm 程度のセセリチョウの仲間です。田畑周辺、河川堤防などの日当たりが良く、幼虫の食草であるイネ科植物の多い草地を好みます。5～10 月にかけて見られます。

【撮影：2002/9/25 長伏】

モンシロチョウ

　はねを広げた時の幅が 5cm 程度のチョウです。畑地、草原などの開けた環境で、春から晩秋にかけて見ることができます。幼虫はキャベツ、イヌガラシなどのアブラナ科植物を食べて成長します。

【撮影：2002/5/22 長伏】

ショウリョウバッタ

　体長が、オス 52mm 程度、メス 82mm 程度の大型のバッタです。草原や河川敷などの開けた環境の草地に生息します。オスは飛ぶときにはねを打ち合わせてキチキチという音を出します。

【撮影：2002/9/25 長伏】